常磐毎日新聞
日刊
五月廿四日
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

小兒科內科
酒井醫院
◎入院隨意（電話五五）
醫學博士酒井保
平市字南町

相次ぐ鰹の大漁に價格が大暴落して
大衆の食膳賑ふ

第二東日本丸の二回に亘る鰹漁水揚に活況を呈した小名濱港は其後中ノ作福田丸、淸勝丸等相次で入港し一萬五千尾に二萬尾と云ふ大量水揚振りの處更に今朝又淸勝丸の九千尾を水揚げしたので相場も十二三文となり中頃七、八百匁もの八九十錢と下落して漸く大衆向きに食膳に上る樣になつた

今朝管下一齊に防火警報を發す

平署では早天續きで乾燥甚だしく各地に火災が頻發しつつあるので今二十四日朝管下一齊に防火警報を發したが殊にここ二三日は强風の模樣があるので警防團員の區內警戒一般火氣使用者へ愼重取扱ふやう注意した

上釜戶
十三棟燒く

渡邊村上釜戶字橋ノ上農鈴木吉治さん方物置から二十三日午前十時頃發火、忽ち同家を燒拂つた上畑越しに三十餘m隔てた隣家へ移り合計五戶十三棟（內非住家八棟）を燒失、正午過ぎ鎭火したが原因は提丁の火損害は約一萬圓に上る見込みである

苗類枯死の惶れ
氣狂ひ陽氣に畑が乾燥

既報石城地方は連日、高溫が續き二十二日から遂に二十八度を突破して二十年來の記錄を示したが雨がない關係から今が定植期にある茄子、胡瓜、トマト類の苗は畑の乾燥甚だしいため何れも定植を控へてをりこの氣狂ひ陽氣が今後一週間以上も續けられると苗類は床の上にて枯死するか或は葉が燒けて移植不能となるので農試分場ではこれを少なからず憂慮し郡下の農家に對し〝毎朝畑へ注水して定植して欲しい〟と注意を促してゐる

四倉築港の工費
不足を告げて陳情

既報四倉漁港の第二期工事は工費十四萬圓、昭和十三、四の二ケ年繼續事業で着工されたが人夫不足のため十四年度末までに漸く豫定の三分の一を終へたのみで物價高騰のため完成までには約五萬圓の工費不足を生じ更に港口浚渫の必要にも迫られてをるのでこれが工費七萬圓と合せて十二萬圓の增額方を農林省に陳情することになり二十七日新妻四倉町長、鈴木漁業組合長外村議代表が助川代議士、木町縣議と共に上京すると

鹿兒島から一筆
全國議長會議に臨んで
平市會議長　野崎滿藏

（前略）十八日午後一時三十分東京驛發特急さくらに乘車、關西線は車中の夢に過し、十九日午前八時下關着、午前八時五十分門司發、午後四時五十六分鹿兒島着、途中熊本より蓮沼氏乘車、同氏は常入山礦業所長故吉田氏の遺族を天草に慰問し故人の墓前に額き時局と入山の發展を報告したとの趣き共友情の溫かさに敬意を表し候。

鹿兒島市は昭和七年六月自分が皇軍慰問の旅にて滿洲よりの歸途一度視察したる事ありしも今日時局の影響に依り其殷賑と發展には一段と拍車がかゝり今は人口二十萬を算する由、皇祖降臨の靈地として又鎌倉時代より島津公七百年の星霜、七十七萬石の大名として幕末の名君齋彬公、維新の三傑、西鄕、大久保の如き偉人を出せる土地だけに敎育狀況の普及は高等專門學校、造士館を初め三校、師範二、中學校三、高等女學校五、實業學校十二、小學校二十一、其他各種學校二十六の多きに達し如何に敎育に重きを置くかを察知せられ候

市內の電車、自動車は總べて市營にて自動車數は乘用貨物を合して四百臺に達し相當の歲入成績を示し居候、會議は昨二十日午前九時開會出席者四百餘名に達し本年は皇紀二千六百年、此靈峰の地を踏まんとする人の多きを爲めと察せられ議案は三十餘題に及び全部を四分に分けて委員附托と相成り其內昨年平市より提出の「國民の體位向上施設を特に各都市に對し速かに實現方其筋に要望の件」及び本年提出の「中小商工業者轉職救濟要望の件」は北海道提出の議案と合併して「經濟統制の强化に當て社會分業上商業者の配給機能を確認し中小商業の救濟振興に一層の配意並に施設に加へられんことを其筋に要望の件」として一案とし全國の議長會議に選擇提出せられし事は後進の平市として面目を施し申候、會議は本日終了すべく、昨二十日午後市內を視察し本日は午後一時頃より櫻島を視察すべく、明二十二日は霧島神宮、明後二十三日は宮崎神宮を參拜し歸途別府に立寄り海路四國に航し松山、道後、高松を視察し大阪、京都名古屋を經て月末歸宅豫定に候、皆々樣に宜敷御傳言願上候（廿一日鹿兒島山下町小田旅館にて）

國債で
賞與を支給

今月から來月は地方における各官廳、會社、工場等のボーナス期だがいづれも例年の如く一部は國債で支給することになつてゐる、その標準は左の如し

〈百圓以下一割△二百五十圓以下一割五分△五百圓以下二割△千圓以下二割五分△五千圓以下三割五分△五千圓以上四割五分

石炭販賣の一元化を注目
當業者の影響甚大

既報石炭販賣の一元的統制を目的とする半官半民の大販賣會社出現は常磐地方の炭礦營業者が全部重大な影響を被るので關係者は業務開始に早くも關心を深めてゐるか殊に平市に出張所が開設される氣運にありこれが實現の曉は全然營業繼續不能の者も相當ある模樣なので時節柄頗る注目さるるに至つた

四倉工場會

工場協會四倉支部では今二十四日午後一時半から四倉署會議室で定時總會を開

いた

防空歌發表

湯本町青年團では防空思想の普及をはかるため今二十四日午後六時から湯本座で「防空の歌」の發表會を開催するが同青年團のブラスバンドも出場する外防空その他に關するニユース映畫も上映する

小名濱各校
海軍記念日

小名濱各學校では二十七日の海軍記念日に實校生一部、二部は植田町小濱附近に演習行軍、實科高女生は近郊三里の遠隔地に徒步行軍また小學校五年以上は競技會低學年は日本海戰の訓話の後ニユース映畫を觀覽する

小名濱支局通信

平より平へ
支局長　小野務平

▽根本新夫妻家庭を覗く▽

富岡驛前網屋支店の特別なる待遇で露宿を免れ布團部屋で一夜を明し早朝々食も喰へず飛び出した向ふ處仙臺車中の人となつたのである初夏の田園農村の牛、馬耕揷秧の準備と云つた樣な姿、汽車は浪江から原町に進むと滿眼初夏の翠黛が新裝を凝しある筈だに遠き彼方の峰續山上に置く白雪はまた晩春を想像させて遺憾がない、即ち

田園桑柘綠
邱巒翠成屛
殘雪遠峰白
乾坤總一青

と叫つた、見るからに翠の屛で圍んで居るが獨り殘雪が遠峰に見るのが翠黛の中に白雪がある感想が面白い。

中村驛から乘客は一入增して車中騷然農繁前の觀光的氣分に醉ふた、中村近鄕のお百姓さんらしい、綠々たる中に亘理、岩沼を經て仙臺に着いたのは八時半、先公衆電話に依つて憲兵分隊に根本曹長の在否を問ふた根本曹長こそ磐城から苦學磐中を卒業して憲兵志願で其志望を伸長せんと勉めて居る舊姓草野勝君である、分隊の誰人が根本君と言ふと一寸間誤ついて居る、草野君と言ふと居りますと來た、電話にと顋めば間もなく根本たる草野が出で之れ又草野ですがと云ふ、そこで小對なる事を告げ其住居を聞きコースを聞いて電話を切つたのである、同じ境遇にあるものの心理は面白いものとの感想が湧いた、草野君が根本家に這入つたのは二月中の事で實は根本を冒した直後である、此直後で根本と名乘る事は一寸面喰ふものと見へる、此例は婿養子たる經驗を持つものでないと判らぬが記者又其感を同ふする。

然し姓を換へた事に依つて人的價値は聊かも變つて居ない姓がよし何であらうと差支ない筈だ、多くの場合、無から有に化する其偉大さは改姓に依つて生ずる利得でなくてならぬ、世の婿養子諸君、姓の代つた事に依つて落膽し給ふなど呼號したくなるのである。

下らない理窟をこねて仙臺驛前から電車を利用し二ツ停留場の花京院通りに下車左に折れて四五丁右側の自動車屋を右に這入れば尤も奧つた處が門標も新らしく木の香高く根本勝と墨痕鮮かに書いてあつたのを認めた。

御免と聲をかければ聲と同時に須美子夫人がしとやかに行儀作法も正しくようこそいらしいと記者の訪問を待ち構へたかに不審を持つた位だ、請ふせらるる儘に玄關から六疊更に八疊の客間に通され結婚後の家庭生活に這入つた最初の訪問だけに何にも斯も目新らしき快感に打たれたのは先づ第一の印象に於て此家庭が其形成に於て滿點である事を裏書し得るのを悅んだのであつた。〔續く〕

縣下制覇の背後に此力
平商體育後援會の物心兩面支持

平商業學校の野球部が今次の縣下中等學校野球戰に二年連勝の榮冠を擔ふに至つた事は既記の如くであるが此の强力チームの偉名を縣下に走せるに至つた背後には眞に赴れが支持後援を惜しまなかつた同校體育後援會の涙ぐましい鞭撻が預つて力ある事は人の知る處でその活動振りは感謝の的となつて居る、同後援會は平商の體育向上を企圖し市立校の面目を保持せしむる事に努めやうと四丁目小野榮吳服店主小野榮一氏を會長とし市內各有志を網羅して組織されたもので物心兩面の後援に依つて同校體育各部の育成に萬全を期しつゝあり本年も運動シーズンを迎へて一飛躍を試みんと前年度の詳細な決算報告を此程各方面に配送したがそれに依ると大要左記の如く如何に同後援會が體育上に多大の貢獻を發揮したかその示す數字に依つても明らかである

▽十四年度收支決算（收入の部）八百圓、各種會員一九五ヶ分會費（支出の部）七百廿四圓十錢、內譯コーチャー費三百四十圓七十二錢、ユニホーム百圓、野球部、柔道部合宿費、百卅四圓、補欠選手派遣補助十二圓、庭球部補助四十圓、競技部同卅圓八十錢、球場開き寄附卅五圓、通信印刷費十六圓十一錢、雜費十一圓卅錢

▽東北大會出場收支決算（收入）七百十六圓寄附金（支出）四百八十八圓四十七錢、內譯出場費二百卅四圓、コーチヤ費百卅四圓、スパイク補助百廿四圓、雜費八圓四十七錢

家人の元氣な姿カメラに納めて
前線の勇士に送る
平市鄕軍海軍部が活動

既報鄕軍平市聯合分會海軍部は海軍記念日の前々日二十五日正午から市會議事堂で今年度入團員の豫備敎育を行へ當日は松ケ岡公園忠魂碑前で記念式擧行後出征海軍々人の家族を訪れ慰問した上元氣な姿をカメラにおさめ前線に送ることになつたがこの外二十八日市公會堂で開かれる軍事講演會に協力し三十一日は平驛を出發する磐三郡下の入團者も歡送する事となつた

カフエ荒し大才
南町の花街徘徊中捕る

東京市淺草區大島町生れ目下住所不定土工市川勝利こと根岸寅吉（三九）は二十三日夜南町の花街を徘徊中平署員に檢擧された、取調べの結果同人は詐欺六犯を有する稀代のカフエー荒しで本年三月七日田町料理店一の井で四圓八十錢、四月十九日湯本町カフエー寶來で十五圓十錢、二十日小名濱町カフエーエビスで十六圓四十錢、五月八日市內四丁目の出食堂で四圓八十錢、同日二丁目カフエ祇園で七圓五十錢、合計五十四圓近くの無錢飲食を働いたことを判明したが他に餘罪あるらしく引續き追究中である

磐女の修學旅行團
今朝出發す

既報磐女四年生二百二十名は二十四日平驛發午前七時四十八分で聖地參拜修學旅行に出發したが歸校は二十八日午後七時三十七分着の豫定である

二毛作品評會

石城郡農會主催の二毛作品評會は三十日神谷村、六月一日永戶村で開催される

平商庭球軍福島高商へ

平商庭球部は二十六日開催される福島高商主催の近縣下男子軟式庭球大會に出場するが連日猛練習を行つてゐただけにその奮戰を期待される

一市民へ。

。投書拜見しました私も至極同感です當方に多少考へがありますので貴文の掲載を見合せお委せを願ふ事に致します不悪御諒承を乞ふ（社內、川崎生）

衞生技手

平署勤務衞生技手內田文男氏はこの程退職後任は草野利雄氏である

馬匹訓練
二町四ケ村

今二十四日午前八時から小名濱町外泉、渡邊、鹿島、玉川、江名の二町四ケ村の馬匹訓練は小名濱海岸に於執行更に來月六日は平市に於て郡內の馬匹檢查に出場せしむると

墓地を淸掃

四倉町原日青年分團長鈴木時雄君ほか七名は每月十五日同町海藏寺內にある戰病死者の墓地淸掃に奉仕し町から感謝されてゐる

學童競技會

小名濱、泉、玉川、江名、鹿島小學校兒童の競技會は三十日午前九時から小名濱グランドで開催

校長會議

石城郡內小學校並に青年學校長會は今二十四日午前十時から小名濱校で開かれた

敎育總集會

石城敎育部會總集會は明二十五日午前十時から小名濱校で開かれる

苗代品評會

鹿島村では六月七日苗代品評會を開く

自轉車注意

赤井村大字赤井雜貨商坂本一男（二六）君は二十三日夜平館で映畫見物中同館前に置いた自轉車一臺（この價格百餘圓）を竊取され平署に屆出た

平市人事

回婚姻

△東京市四谷區新宿一ノ八〇中野勝代（三三）氏と新川町二三ノ銀谷キミさん（二七）

回死亡

△白銀町三八佐氏孫引地修一（一）君
△大舘一勇氏母小柳キサ（六一）さん

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間「かゞやく日本歌繪卷」（五）「奈良の都」大阪音樂劇研究會
▼後六、二五　講演「答禮使節として日本を訪れて」赴日答禮使節陳公博
▼後七、二〇　鄕土に寄する言葉（錄音）千葉勉
▼後七、三〇　國民歌謠
▼後七、四〇　中支より
▼後八、〇〇　新箏（曲）中能欣一ほか
▼後八、一〇　連續物語「太閤記」（三）羽柴時代（六）市川八百藏
▼後八、五九　佛法僧を聽く―三河國鳳來寺山より中繼―

明日の部

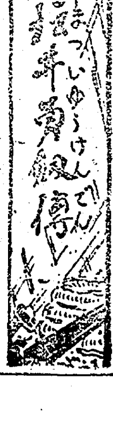
▼前九、四五　幼兒の時間（小さな音樂會）一、童謠（獨唱）馬渡郁子二、ヴアイオリン、阪御數秋、高橋郁子三、ピアノ獨奏　紀田多美子
▼前一〇、〇〇　衞生メモ（秋料理獻立）「筋子の御台と對栗の含め煮」秋田縣衞生課發表
▼前一〇、一〇　家庭の時間「乳母と其他の乳」醫學博士齋藤潔
▼後〇、〇五　土曜コンサート
▼後〇、五〇　東京大學野球聯盟―春明試合實況明治神宮外苑野球場より中繼（定時放送は實況を中斷して放送す）
▼後三、〇〇　婦人の時間「時局社會見學」錄音

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平・四　電話六〇六番

「旨い」と一言（ヒトコト）にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
平市仲田町
日本料理　山茶（つばき）莊
電五二〇

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽淸
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平市田町　電話五一三番
內科小兒科　外科花柳病科　耳鼻咽喉科
◎看護婦至急募集

株式先高必至
現物の買時
優良株御案內申上げます。
株式日報御申越次第御送付致します。
有價證券
實物問屋
富岡株式店
平市四丁目（電話一九一番）



まついゆうけんでん
松井勇劍傳

第八十一回

熟睡（じゆくすい）したふり

スルト[illegible]殿何處までも[illegible]な故で、[illegible]が危いと見て、つたから急、[illegible]作つて來た。勘「[illegible]分りました」民「[illegible]入りました、此の上はもうか、先生がお[illegible]でか」勘「イヤ、[illegible]の[illegible]、お[illegible]間の[illegible]久し振りにお[illegible]は酒、[illegible]ではあるが何分ん[illegible]はあるし、それに[illegible]みが[illegible]え、[illegible]病[illegible]めに時々此の苦しみ剤にお[illegible]の[illegible]であるが日の所は……ア、[illegible]たゝと此の[illegible]の病、の[illegible]九[illegible]え[illegible]病だ、[illegible]病だ[illegible]て[illegible]。今[illegible]已れが[illegible]病が[illegible]やりますと、[illegible]殿は大[illegible]に[illegible]び「[illegible]前氏、今日は[illegible]の[illegible]を[illegible]まつゝた、何卒[illegible]ひたい、[illegible]、も早く快くつて是非一[illegible]手合せいたしたい[illegible]して[illegible]先生に一寸[illegible]ひが[illegible]るが何ゝ[illegible]けて下さるまいか」

民「ハテ[illegible]者[illegible]とは？」

勘「[illegible]でよ[illegible]にませぬ、[illegible]一[illegible]合せいたしたし[illegible]がとの[illegible]では門人[illegible]古をつけて[illegible]は[illegible]にもいかぬ次第、[illegible]きまして門人に[illegible]古をつけて[illegible]、[illegible]まで一[illegible]日[illegible]では下さるまいか」

民五[illegible]もとのまゝにしてゆく[illegible]にもゆかず[illegible]ひと

民「イヤ[illegible]に一日も[illegible]く[illegible]さねば[illegible]ぬが、[illegible]らば[illegible]することにいたしませう」

つて居る。」

民「それでは今日の所はお[illegible]へませんか」勘「何分[illegible]し込み[illegible]め……[illegible]のないと[illegible]ござゝが――ア[illegible]々」

[illegible]を抑へて、しきりに[illegible]む[illegible]なして困ります。

門人「アッ大[illegible]だ、先生が[illegible]を起されたぞオイ[illegible]々が、早く先生[illegible]の間へッ」

「それ[illegible]いでッ」

先生が先生ですから。門人[illegible]れたので、忽ち寄つてたかつて奥の一間へ連れて[illegible]りました。

民十郎も心中に[illegible]と思はれでもないが、どうするやかと立つたまゝ見送つて困ります。するゝ[illegible]らくすると門人が出て來て

門「[illegible]前氏とやら、今日は飛んだ失[illegible]を仕まつゝた。ついては先生が一[illegible]お[illegible]が申上げたいから失[illegible]でござるが、病床でお目にかゝりたいと申して居ります、[illegible]ながら[illegible]お[illegible]願ひ度う御座る」

民「左樣で御座るか、この儘ゝ立[illegible]るか[illegible]なくなする、先生に一[illegible]申上げやう」

それから病床[illegible]を[illegible]つて[illegible]殿[illegible]さん[illegible]

勘「[illegible]、[illegible]に[illegible]何分よろしくお願ひ致す」

民五郎に[illegible]を述べてから、今は[illegible]共に向ひ

勘「[illegible]々[illegible]お聞及び[illegible]通りだ今日より[illegible]前先生に[illegible]ひすやうに」

門「何卒よろしく」

「何分[illegible]」

門人[illegible]は[illegible]つて頭を下げる。

勘「ホア、それでは何もないが、[illegible]前[illegible]生に一[illegible]上げる[illegible]てお取りなし[illegible]願む」

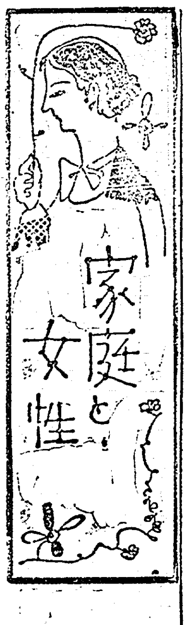
門人共は酒が飲めるので大[illegible]び、忽ち[illegible]が初まりました。

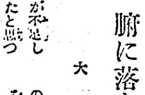
民十郎も心中に[illegible]して[illegible]は、たまりませんか[illegible]される[illegible]片[illegible]から飲み乾して困ります。やがて門人共は酔ひつぶれてしまひました。[illegible]は[illegible]に門人を[illegible]き

勘「これ[illegible]前先生を[illegible]へ[illegible]申上げろ。お疲れの[illegible]を[illegible]の[illegible]は[illegible]であらう」

民五郎は門人に案内されて[illegible]つゝ[illegible]へ案内されまして[illegible]へ入つた。

すると[illegible]中ゝ[illegible]き、ミシリ／＼と近づいてくる足音がいたします。





腑に落ちぬ事

大岩美代

卵が不足して來たと思つてゐると公定價格が發表された今度は又砂糖が缺乏したと思ふと、統制で砂糖の値上りが發表された

卵百匁が四十八錢とは承認の二十錢にくらべて家庭の主婦は啞然とするばかりである。一品物が不足してくると必ず値が上るのは分るが、値が上ると又必ず品物が出てくるのは不思議だ

これでは一番こまるのは主婦で、らくな金儲けをしてゐるのは商人と云ふことになりさうだ

國の內外に重荷を分け合つて行かねばならない時であるから、少々物の不足することにも、値段が上つて家計の切り廻しのむづかしくなる事にも耐へて行くが、必ず品物があると云ふ見とほしがついてゐるのに、公定價格を高く發表しなければ、それを消費者の手に渡す事ができないと云ふのは何か腑に落ちないものがある

そこには隨分と難しい問題があるとは想像されるが何とか方法を講じていただきたい。

白米がなくなり今度は外米がまざると聞いては、その度に炊き方を研究し、丈夫な子供を育てゝ國のお役に立てたいといふ願からお魚でも安く食べられるものを買ふ。

主婦はこのやうな眞面目な心遣ひや努力を續け、國策と家庭經濟との結びつきを自覺してゐるのに、投機みしてゐる商人があるのは非常に不愉快な氣がする。

子供に良い本を！

多方面に亘る興味と自主的になつた選擇法

……小學兒童は何が讀みたいか

◇……子をもつ母親は誰しも、立派な人間になつてくれるやうと望むのが人情でありませう

◇……小學校へ行けば、いゝ點數をとるやうにと母親が躍起になるのもこの念願に他ならないのでありますが、そのため、母たちはよい本をたくさんあたへやうと色々苦心されてゐます

◇……しかし、子供たちは一體どんな本を讀みたがつてゐるのか、母親たちは知らぬまゝに、五里霧中で買つて與へてゐるではないでせうか――第[illegible]幼稚園の宮下正美先生はさう前おきして、子供の讀書の傾向をくはしい統計に基いて次のやうにお話して下さいました

子供の讀み本の傾向は[illegible]ごろ目立つて分化してきたやうに見えます、おそらく讀書の指導が行きとどいたことや出版の制限などがその原因をなすものと思はれますが、趣味的な發達に並行して讀まれる方面にはさして變りがないやうに思はれます

子供の讀書が自發的自主的となり單なる童話にあきたらず、各々の子供がその趣味に應じて分化してゆくのは大體に小學の三年即ち十歳ごろにあると考へられます。

從つてこの頃に與へる本については特別な注意が肝要であります

では、この子たちは童話を離れてどういふ方面に向ふか？――といへば

第一は最もイージーなコースで講談や落語を極端に好む子ができます

第二は探偵小說、探偵がかつた物語を好む子ができます

第三は科學の方面をこのむ子ができます

第四は歷史の傾向で軍事・國防の本或はそれに關聯した物語・歷史をこのむ子ができます

大體この四つの方向に分化しても、普通その一つのみに偏るのではなく、その四つをいづれも讀むか、そのうちの一つを特に多く讀むといふ傾向になつてまゐります、そして別の方面として偉人傳は本能的に誰にもこのまれてをります

さてかうして四つの方面に各々色づけられてまゐりました子供たちは次にはどう進むかといへば、大體、早い子で五年生、おそい子で六年生の頃に、第一の講談落語をこのむ子、第二の探偵冒險をこのむ子たちは、これらを卒業して偉人傳をこのむやうになります

第三の科學をこのむ子、第四の軍事方面をこのむ子等は、一段と國防に突入してさらに純粹なものとなり

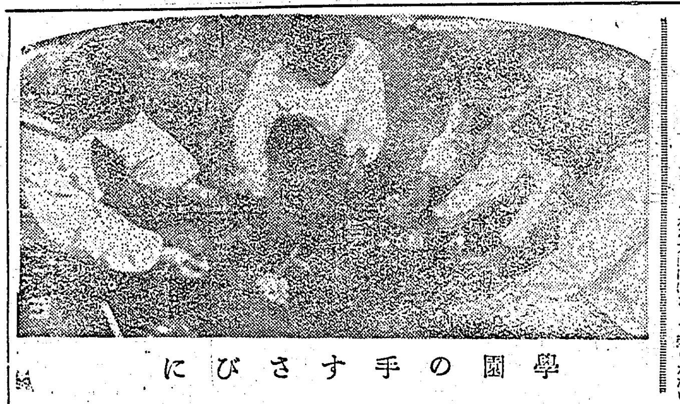
分化して、飛行機のことをこのむ子、植物方面をこのむ子、昆蟲に關する知識に貪欲な子といふ風になります

この二つに子供たちが離れていくのはきはめて自然なプロセスでありますが、一方には早くも人生問題、社會問題に關聯した小說・童話などをよまうとするきざしが見えてきてをり、特殊の子では、もう詩や純粹文學の方に先つ走つてをります

やがて、中學一、二年になりますと、文學的作品に足をふみ入れて（男は傾向が分れて一概に申されませんが）女としては文學作品一本槍で行くのが目立つて多くなつてゐます

こゝで注意すべきことは小學五六年の頃になると純粹の歷史・地理の本を一向に興味の對象としないことです、これはよい本のないことによるのか・その理由は明瞭でありません

大體以上の通りに子供たちの讀書の傾向はすゝんでをることが統計にはつきり出てをりますことから親御たちはこの點をよく知悉して子供の選書を誤らないやうに心がけていただきたいと思ひます



學園の手すさび

……小ばなし……

酒屋のレッテルに、エキス二十八度としてあるを見て

「二十八度で仕合せ。エキス二十七度なら、さぞスパイ酒だらう」

これから多くなる

脚氣は日本人の恥

早く治して健康報國

昔から人生の最大の幸福は不老長壽といふことであつたことは、人類文化の發展史を檢討する時に、化學、文學等いづれも、人間生活の幸福を求めて發達し進展したことに徵しても明らかであります、今日「先づ健康」なる言葉が標語となつたのも辛抱が赴く所は幸福な長壽を求めてのことであり、健康あつての物種だからであります、個人に就いても民族に於ても然り征服被征服亦た健康であります

特に近世ヨーロッパの地圖を變更しつゝある大戰が世界大戰にまで擴大の可能性ある秋われ／＼大和民族は總力の「健康」をつくり上げねばなりません。

殊に日本人のみに見られるといふ脚氣などは一日も早く驅逐しなければならぬものです。

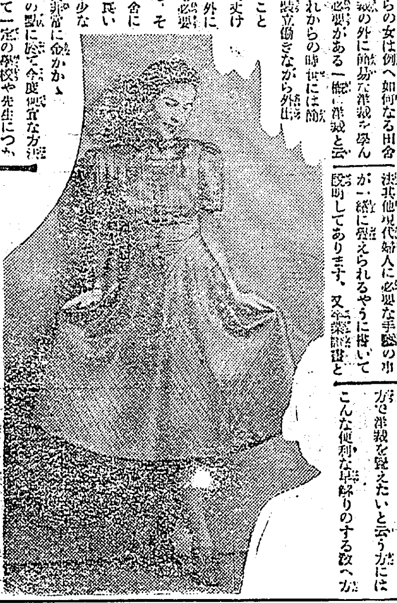
又腎臟硬化症といひ慢性腎炎膀胱カタル便秘といひ日本人の體質に適した藥さへ服用すれば忽ち驚くべき効果があるのである。（中風や腎炎）（脚氣）には「[illegible]」といふ德川時代からの名聲があるが、これなどは實に和漢藥の代表的なものでその效力と作用は絶大なものがありますいわしやの安藥といへば何處の藥店にもあると思ひますが・動脈硬化症・高血壓、中風・腎臟炎・胃腸・脚氣のいろ／＼な症狀等の方は是非服用して一日も早く健康を造り上げて下さい。

若し品切れの時は東京日本橋堀留町二丁目山崎商店へ新聞名記入申込めば送つてくれます、藥價は七日分一八〇、半月分三・五〇、一ケ月分六・五〇です。

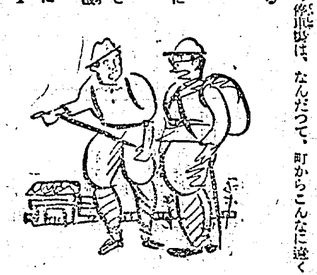
獨特の簡易裁斷法教育と

主婦として心得べき洋裁法

これからの女は例へ如何なる田舍でも和服の外に簡易な洋裁を學んでおく必要がある一般に洋裁と云ふがこれからの時世には簡單な服裝位は働きながら外出用事のことまで成丈け和服の外に洋服も必要である。そこで田舍には仲々良い先生が少ない、又非常に金がかゝる。此の點に於て今度便宜な方法で敎いて一定の學校や先生につかずして自からすぐおぼえらるゝ新案裁縫法といふ「洋裁講習錄」が全六卷になつてこれさへ自宅で讀めば家事に居ながら容易に技術が實力がついて樂々と呑込まれる自宅で習へる一歩進んだ教授の裁斷法が有名な斯界の大家斯界の女子先生によつて通信的に教授されます。御必要な諸君は東京牛込納戸町見付東京洋裁學院校舍へハガキでまづその內容見本を御申し込みなさい、今なら月報「洋裁之友」三ヶ月分を無代で貰へます何この講義の名を書いて御請求になれば特にいろ／＼御親切に御便宜が與へられます。何その外講義講座としてフランス刺繡・歷史、リボン造花、人形・[illegible]其他現代婦人に必要な手藝の事が一緒に覺えられるやうに書いて說明してあります。又[illegible]店頭案內も授與され他に類似の無い效驗法で出來るだけ懇切鄭寧に指導的に書いてありますから婦方で洋裁を覺えたいと云ふ方にはこんな便利な早解りのする教へ方は[illegible]共に洋裁教授受驗案內。――洋裁說きかたはありません。（廣告）



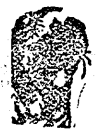
停車場



旅行者「こゝの停車場は、なんだつて、町からこんなに遠く離して建てゝあるんだらう。」

案內者、申しわけなさそうに

「それがその、町の衆は、停車場というものは、鐵道線路のそばに建てたほうがいゝと申しますもんですから」



時局小說

驀進

（映畫化決定）

士別一樹 作

北野傳 畫

第百五十四回

由紀子の覺悟（二）

由紀子の父は、諦め顔から父きの話しを受けた時の驚き以上の驚きで娘を見つめた。自分にはもう出たいといふ覺悟であつた由紀子も、その相手が若い男でなかつたならば父の驚きを見ると泣く

「でもお父樣、お友達と一緒よ」

父は言つたかも知れない。

然し由紀子が未婚の若い娘であつて見れば、由紀子にしたところが一寸說明するのに[illegible]氣持がしたのである。

「一人ではないといふが娘と一緒に行くのだ、お友達は誰さん」

「………」

娘が一緒に行くといふ相手を說明したいので、大道は[illegible]なつた[illegible]り、すゝペッと口を切つて火をつけ

「わしも今迄は隨分お前や京三の我儘を許してきたつもりだ。その若い身空で支那までも飛び出したら世間では何といふか、嫁入り前の大切な體で、怪しからん話だ そして相手はどんな人間なんだ」

由紀子は父が本當に怒つたらしいことを察すると、その返答に困つてしまつた。滿の事をどう說明しやうもなかつた。ふと彼女は京三郎を家庭教師として雇つたのことを思ひ出し

「お父樣も知つてゐる人の兄さんですわ。ほら、ずつと前に家庭に園子といふ娘さんがゐたでせう」

「園子？知らんね、そんな女は」

父にさう云はれても園子がどんな娘であつたか大道には記憶に殘んで來なかつた。

「以前家庭教師に來て居つたとのおよ」

大道はやつと思ひ出した。そしてあの頃の自分を[illegible]思ひして

「あゝやつと思ひ出したよ。あの女がお前はまだ[illegible]とるのか」

「えゝ、いろ／＼なことで」

「ふん、然しあの娘は行方不明になつた筈じやないか」

「えゝ、あれから間もなく兩親は亡くなりましたけれど、あの時はお父樣も隨分御心配でしたわねえ」

「うむ然しその奴が[illegible]らんことをするものだから隨分要らん心配をしたよ。おまけに家の京子に[illegible]されるしな」

大道はウッカリ口を辷らしてハッとした。

「あら、お父樣、京子さんを御存知ですの」

父の意外な言葉に、由紀子は吃驚して訊いた。

「いや、なに知つてゐるといふでもないが一寸噂は知りだ」

大道は、あわてゝ否定したが、顏色がスッと流れた。

「何ね、顏見知りであるだらうないだらう、京子さんが結婚するたんで、許へられないわ、一體何處でなの」

由紀子は蒼白な、分に突ッ込むと大道は徐々あわてて

「そんなことはもう過ぎたことだそれよりも肝心の話をせんか」

と、苦しさうに藥缶の煙をフッと吐いた。

これで今迄の固い氣持もすつかり消えてしまつて、由紀子は案に明り出せ[illegible]やうな氣がした。

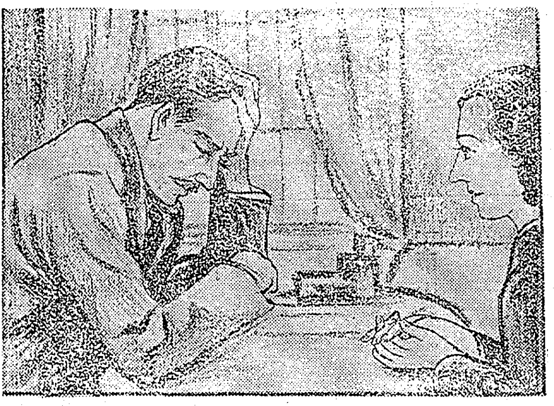
「京子さん今とても大した人氣よ この間或人の館で稽古所があつたので私も行きましたけど、今ではもう押しも押されもしない舞踊界の新進だわ。兄さんといふ方とはずつと以前お目にかゝつたんですけれど、鷲山の方がやつてゐる方なのよ」

「鷲山？」

「さうよ、今に大したお金持になるわ」

大道は默つて考へ込んでゐた。今迄の事業が殆ど破綻に瀕してゐる彼にとつては、鷲山とはすとふ耳寄りな話である。

その父の心中を見拔いて守り込んでゆく由紀子もまた、何んともなのであつた。



カメラと用品
現像引受
お用命は
西村屋藥局寫眞部
平2・電3

移轉廣告
今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候
平市南町十四番地（警察署通り角）（舊診療所 平市六丁目）
木村外科醫院
外科一般 內臟外科 性病科 肛門病科
木村淳
電話三〇九番
◎入院應需

二千六百年を强調する
尚武日本のお節句!!!
五月人形
▼勇ましい武者人形▲
▼鯉のぼり▲
▼甲冑類▲
……各種豊富に取揃候……
平市二
フクタヤ祝品部

開院
外科一般 內臟外科
整形外科 肛門病科
性病科 レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長 上田耕作
電話一九二番

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目
電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は（久）の生命なり

◎パナマ帽子クリーニング開始
舶來本パナマクリーニングは白榮舍ランドリー弊店のクリーニングは舶來原料に依る仕上げです（舶來原料豊富）
中折帽子も當店獨特の純ドライクリーニング機械でクリーニング致します、變色しないかぎり新しくなります
▽二百圓・參百圓・五百圓の品の毛織物も安心してたのめる
田町の
白榮舍ランドリー

洋品物は！
平市田町
玉屋
電六五六

芳醇！ 美味！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

◎女車掌（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
平市二丁目
三井タクシー
電六八五番

提灯と國旗

メガネ專門の店
メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい……
玉屋
平市本町二丁目

齒科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科醫學士 原精一
平市土橋通
電話三一一番
原齒科醫院

鐵管代用
エタニツトパイプ

	耐壓封度	內徑	一本ノ長サ	一本ノ價額	ボルト繼手代
D級	250	50	3m	4.72	2.90
〃	250	75	3	6.97	3.50
B級	100	100	3	7.90	6.25
〃	100	150	4	17.70	9.20

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

初夏!!!
（とんかつ專門の店）
興亞の春を迎ひどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します。
平市仲田町（電話四六五）
かの家
營業時間
自 午前十一時
至 午後十一時